



## 解雇問題の解決を目指してILO本部へ日乗連委員を派遣

### 1. ILO（国際労働機関）への日乗連 JAL整理解雇対策委員/LEG委員 派遣の目的

2010年のJAL破綻時に強行された整理解雇問題について、JAL経営陣から「解決に向けて進む」と明言して2018年5月に開始された「特別協議」において、労使間で議論を継続してきました。しかし、経営側は解決策として再雇用策を提示したのみに留まっただけでなく、1名の被解雇者しか採用されていない状況です。このように間もなく10年を迎えようとしている現在でも問題解決に至っていません。

こうした状況を踏まえ、今回の日乗連メンバーその他によるILO訪問では、これまで4度に渡る勧告がILOから発出された以降の労使交渉における現状の報告、さらに日本航空の経営状況の報告を行うと共に、今後の取り組みについてILOから知見を求めました。

### 2. ILOとはどんなところ？

ILOとは世界における労働問題に対応し、労働者の権利を保護することを目的として1919年に設立された国際機関です（設立当時は国際連盟の姉妹機関。第二次世界大戦後に国際連合最初の専門機関）。労働問題を解決することによって世界平和を実現することを目標に、世界における平等な労働条件の実現に向かって活動を続けると共に、労使問題を解決する活動も続けています。ILOは国連機関の中で唯一、各国から政府代表と使用者代表そして労働者代表の三者で構成されており、政労使の三者合意をもって全ての決定が下されています。つまり政労使三者の合意で決定されたILO勧告の意義は非常に大きく、重い意味を持っています。

### 3. 日本航空経営陣に対して発出されたILO勧告は既に4度

日本航空は2010年1月に経営破綻しましたが、その際、経営側は何ら責任のないパイロットと客室乗務員の合計165名を整理解雇しました。ILOは、解雇そのものが世界基準から大きく逸脱しており、多くの問題を残していることを問題視しており、「労使間の話し合いで解決すべきである（主旨）」とのILO勧告をこの6年間に4度に渡って発出しています。2018年11月の第4次勧告では、それまでの勧告を受けて、『・・・会社と労働組合との間で意義ある対話（交渉）が維持されることを強調し、結論に至るべく（解決するまで）完全かつ率直な討議が維持されると信ずる』としていますが、未だに解決していないのはご説明した通りです。今回の訪問でも、ILOは「この結論は変わらない」ことを明言しています。

#### 4. 事前準備したILOへの報告内容

JFU（日本航空乗員組合）と CCU（日本航空キャビンクルーユニオン）を中心としたメンバーは、ILO 訪問に備えて論点を整理しました。その主な内容は以下の通りです。

- ・「JAL 解雇問題の現状」として、2018 年 5 月 14 日の労務方針変更の発表
- ・日本航空株主総会において「1 日も早く解決したい。そのために誠心誠意話し合う」という経営陣の決意表明
- ・解雇問題の解決を目的とした「特別協議」が開催された経緯について
- ・解雇問題の全面解決を目的としていた「特別協議」が 12 回も開催されたにも関わらず、結果として未だパイロットそして客室乗務員は一人として採用はされておらず、経営側は解決に向けた姿勢を示していないという事実

#### 5. 報告に対してILO高官は驚きを隠さず

今回の訪問では、結社の自由委員会の責任者であるカレン・カーチス氏や労働者活動局副局長のアンナ・ビヨンディー氏を始めとする、複数の高官との面談が実現しました。

##### 今回の ILO 訪問で面談した複数の高官の発言（抜粋）

- ・労働組合の長きにわたる不屈の取り組みに敬意を表します。良く報告に来て下さいました
- ・解決に向かっていない事実は大変に遺憾であり、残念である
- ・12 回の解決に向けた交渉が行われているのになぜ解決しないのか、信じられない。経営は解決案を何故示さないのか
- ・勧告の結論である『・・・結論に至るべく完全かつ率直な交渉が維持なければならない』という結論は変わらないし、今後とも維持される
- ・報告を受けて、会社の対応は信じられない思いだ。通常であれば、世界的に観ても ILO からの勧告を守る姿勢を示すことは当然である
- ・とても“誠意ある交渉”とは言い難い、一体どうしてなのか理解できない
- ・東京オリンピック組織委員会と ILO との「調達コード」を早急に研究してはどうか
- ・破綻という大きな状況の変化がある時には、世界的にも Yellow Union(いわゆる御用組合)が結成され、経営側の賛同者が過剰に横行することがあるが、日本航空ではどうだったか
- ・職場の団結が一番重要であり、それを大切にしながら進めて行くことが大切
- ・IFALPA や ITF（国際運輸労連）を始めとする国際的な外圧が重要
- ・皆さんの国内での支援が全国で 9 年間続けられているという報告は素晴らしい
- ・ILO は解決するまで皆さんを支援する。いつでも報告に来て欲しい

**ILO として今後何が出来るかについて、具体的な提案を含めた知見も示されました。**

**早期解決に向けて、日乗連は JFU と CCU の取り組みを支援していきます。**

以上